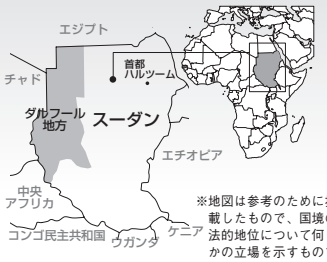
基礎講座

ユニセフ基礎講座　第24回

# 忘れられた「世界最悪の人道危機」
## ―スーダン・ダルフール　アグネス大使の視察報告より―

アフリカのスーダン・ダルフール地方で起きている人道上最悪といわれる危機的状況について、日本での報道は途切れがちです。

現状を視察した日本ユニセフ協会大使のアグネス・チャンさんが、「私の心は完全に打ちのめされた」と振り返るほど、ダルフールは想像以上のむごい状況でした。アグネスさんが帰国後、声をつまらせ、涙を流しながら行った報告会の一部を、アフリカの子どもの「忘れられた緊急事態」の事例としてご紹介します。




※地図は参考のために掲載したもので、国境の法的地位について何らかの立場を示すものではありません。

## ● ダルフール問題

アフリカで最大の国土を持つスーダンでは、政府と南部の武装勢力による内戦が20年以上続き、2005年1月にやっと和平が成立しました。しかし、スーダンにはもうひとつの深刻な紛争、「ダルフール問題」があります。

スーダン西部のダルフール地方では、2003年からジャンジャウィードと呼ばれるアラブ系民兵組織によるアフリカ系住民などに対する焼き討ち、略奪、虐殺などの襲撃が後を絶たず、人びとを恐怖のどん底におとしいれています。

ダルフールの住民の中には、国境を越えて隣国チャドに逃れ、チャド東部の難民キャンプで暮らしている人たちもいます。そのため、チャドのこうした地域では急激に人口が増加し、地元の人びとの生活がさらにきびしくなる事態となっています。

## ● 学校で襲撃された子どもたち

焼き討ちにあった村の小学校は、授業中に襲撃されました。12歳～20歳の子どもたちは壁面に並ばされて銃殺されたと言います。銃弾のあと、血のあと、脳の一部がまだ壁にこびりついていました。「なぜ、こんなむごいことが起こっているのだろうか」とただ泣くしかありませんでした。

ダルフールの焼き討ちにあった小学校
Ⓒ日本ユニセフ協会／新藤健一

## ● 苦しくきびしい生活

スーダン内の避難民キャンプがある地域は、もともと砂漠で水が不足している地域です。

ユニセフは水をくむ手押しポンプをたくさんつくりましたが、キャンプに逃げてきた避難民の数があまりに多いために、2日待ってやっと水が手に入るかどうかという状況です。

給水所で順番を待つポリタンクの長い列
Ⓒ日本ユニセフ協会／新藤健一

スーダンの避難民キャンプの様子
Ⓒ日本ユニセフ協会／新藤健一

水やまきがなければ料理を作れないので、おなかがすいてもがまんしなければなりません。食糧（穀物のソルガム。ひいて水で薄く溶いて食べる）の配給は十分でない上に、砂嵐のために料理に砂が混じってしまいます。子どもたちと一緒に食べましたが、じゃりじゃりした糊を食べている感じでした。

## ● ユニセフの活動

ユニセフは非常に困難な状況の中で、大きな成果を上げる活動をしていました。

子どもたちの命を守り、病気を防ぐ安全な水を90万人に、医療を140万人に提供し、16万7千万人を学校に戻すことができました。

キャンプで暮らす9歳の男の子のお母さんは「今、一番欲しいものは子どもの教育」と言っていました。2番目が食べ物、3番目が治安。こんなにきびしい状況の中でも一番大切なのは子どもの将来なのです。

ダルフールの避難民の数の多さからすると十分ではありませんが、きびしい状況下でがんばっているユニセフのスタッフたちには、本当に頭が下がりました。

皆様のご支援が、ユニセフの活動を支え、ダルフールの人びとに「希望」と「笑顔」を生み出しているのです。

＊この記事は、2005年4月にアグネス大使が行った報告会の内容のまとめです。

**スーダン・ダルフール緊急募金にご協力を！**

**郵便振替:　00190－5－31000　　口座名義:　財団法人日本ユニセフ協会**

＊振込用紙をご希望の方は学校事業部へご連絡ください。　＊通信欄に「スーダン」とお書きください。

**インターネットからも募金を受け付けています。　http://www.unicef.or.jp/bof/bo.html**

◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆ ダルフールの深刻な事態について、くわしく知りたい方は資料をご覧ください ◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆

●日本ユニセフ協会ホームページ　●ユニセフ・ニュース206号（余部には限りがあります）

**お問い合わせは学校事業部へ　☎03-5789-2014　FAX 03-5789-2034**